

4. 五ヶ瀬川流域における一体化の取り組み

五ヶ瀬川を擁する宮崎県五ヶ瀬町の流域一体化による水源地域活性化の取り組みについて整理します。

ステップ1 流域一体化のための問題意識を整理する

これまで五ヶ瀬町で取り組んできた上下流や水源地域の活動を踏まえ、流域の内外の連携による森林整備や環境学習の取組を通じた水源地域の保全を進めていきます。

特に、五ヶ瀬町がこれまで取り組んできた地域づくりを水源地域の環境を活かしながら観光促進に繋げていくことを検討していきます。

ステップ2 流域をコーディネートする必要性を整理する

五ヶ瀬町では、源流資源を守るためには上下流で暮らす人が源流の恵を共有し、協働して保全していく取り組みが重要と認識しています。これまで町内では、地区毎に様々な地域づくりを展開するものの時の経過とともに活動が衰退してきました。この中で、「夕日の里」地区は、後継者育成に力を入れてきた甲斐があって、コミュニティビジネスや環境配慮型ビジネスが定着傾向にあります。地元で活動しているNPO五ヶ瀬自然学校では、自然教室等による意識の向上は図ってきたものの経済的な側面まで踏み込まないと持続性は困難なため、着型観光モデルの構築を模索中です。関係者揃っての共通認識は、個々に活動しても五ヶ瀬の力にならないため、何らかの展開で横串に繋いでいきたい、という思いを持っています。



ステップ3 現場を歩き、地域の実情を把握する

1. 五ヶ瀬町の概要

五ヶ瀬町は、宮崎県の北西部に位置し熊本県とも接する人口 4,500 人ほどの町です。

地理的に、宮崎市まで車で3時間半かかるのに対し、熊本市までは約1時間半、福岡市まで2時間半で到達できる位置関係にあります。このため、生活面では、宮崎市よりも熊本市や福岡市との関係が強くなっています。

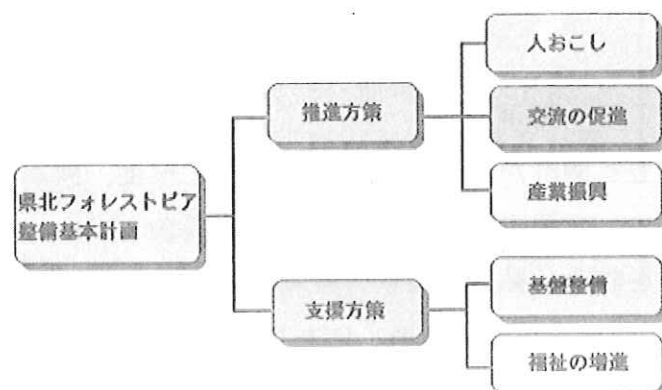
五ヶ瀬町は、4億3千万年前に九州で最初に海面から地表が顔を出したことから「九州発祥の地」と言われるように地質年代が古く、岩石も貴重なものが発掘されるなど地質関係者から着目されています。そして、祇園山など標高1,000mを超える山地があり、全国最南端に位置する五ヶ瀬ハイランドスキー場があります。また、天孫降臨で知られる高千穂町や平家の落人伝説で知られる椎葉村など、日本の歴史にも深く関わる地域が取り巻いています。



五ヶ瀬町は、以前から地域づくりに熱心です。特に広々とした畑作地帯の桑野内地区は、どこからでも阿蘇連山が見渡せ、特に大きく美しい夕日が見られるため「夕日の里」と呼ばれています。住民により「夕日の里づくり推進会議」を立ち上げ、農家民泊などのツーリズムを促進してきました。また、日本初の中等教育学校である宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校があり、地域も一体となった教育方針を貫くなど人材育成においても熱心な地域です。

また、五ヶ瀬町は、周辺の高千穂町、日之影町、諸塚村、椎葉村と共に、昭和62年から「フォレストピア宮崎構想」を推進しています。フォレストピアとはフォレスト (forest) ・森林とユートピア (utopia) ・理想郷という2つの言葉を合わせたもので、人々が森林のめぐみを上手に利用して、いきいきと心豊かな生活ができる場所、即ち「森林理想郷」を意味します。

構想の具体的な考え方は、物



質的には豊かで恵まれた要素の多い都市にたいして、山村地域のすばらしさを示し、山村の住む人たちもあらためて「山村の良さを再認識し、自信と誇りをもって森と山村に生き続けよう」と活動をはじめ、県民一人ひとりも新たに森や山村との交流を活発にして、生活の質的向上と県土の均衡ある発展で「日本一住みよい宮崎県」を目指すものです。

この構想の実現のために、さまざまな職業の代表者から成る「県北フォレストピア実行委員会」を結成すると共に、「県北フォレストピア整備基本計画」を策定しています。この計画は基本理念、これを支える3つの基本施策、さらには具体的展開を図るため「人おこし」、「交流の促進」、「産業振興」の推進方策と「基盤整備」、「福祉の増進」の支援方策から構成されています。

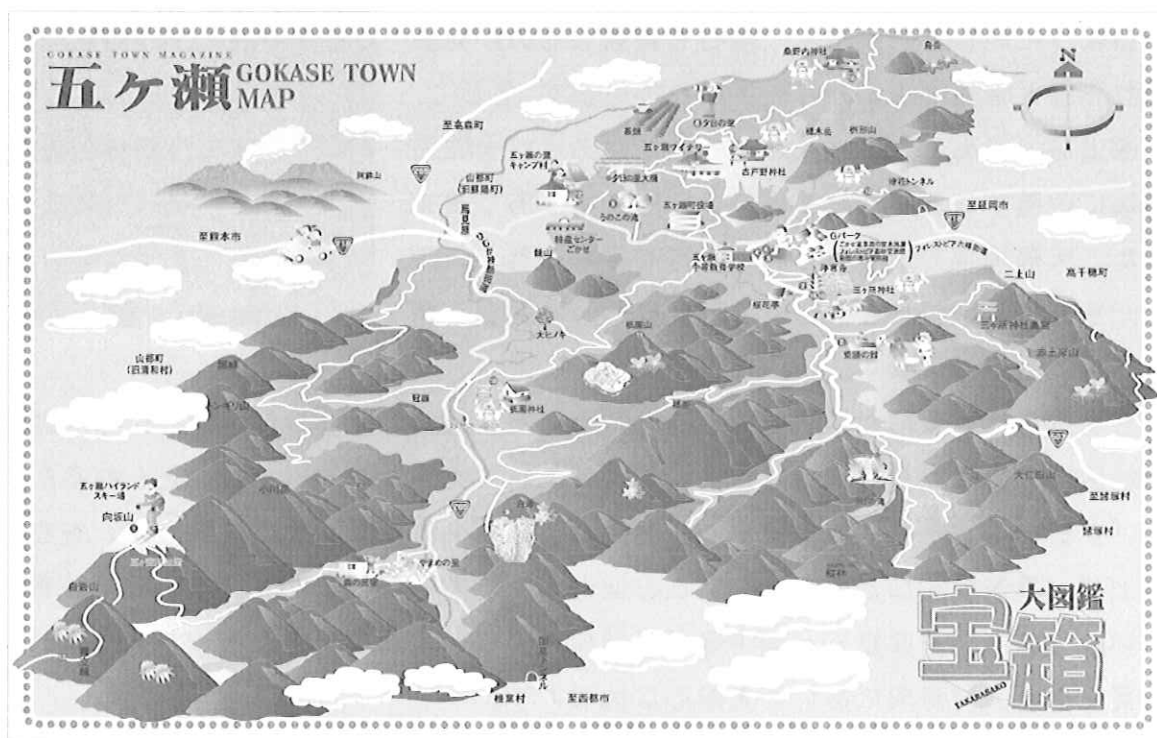


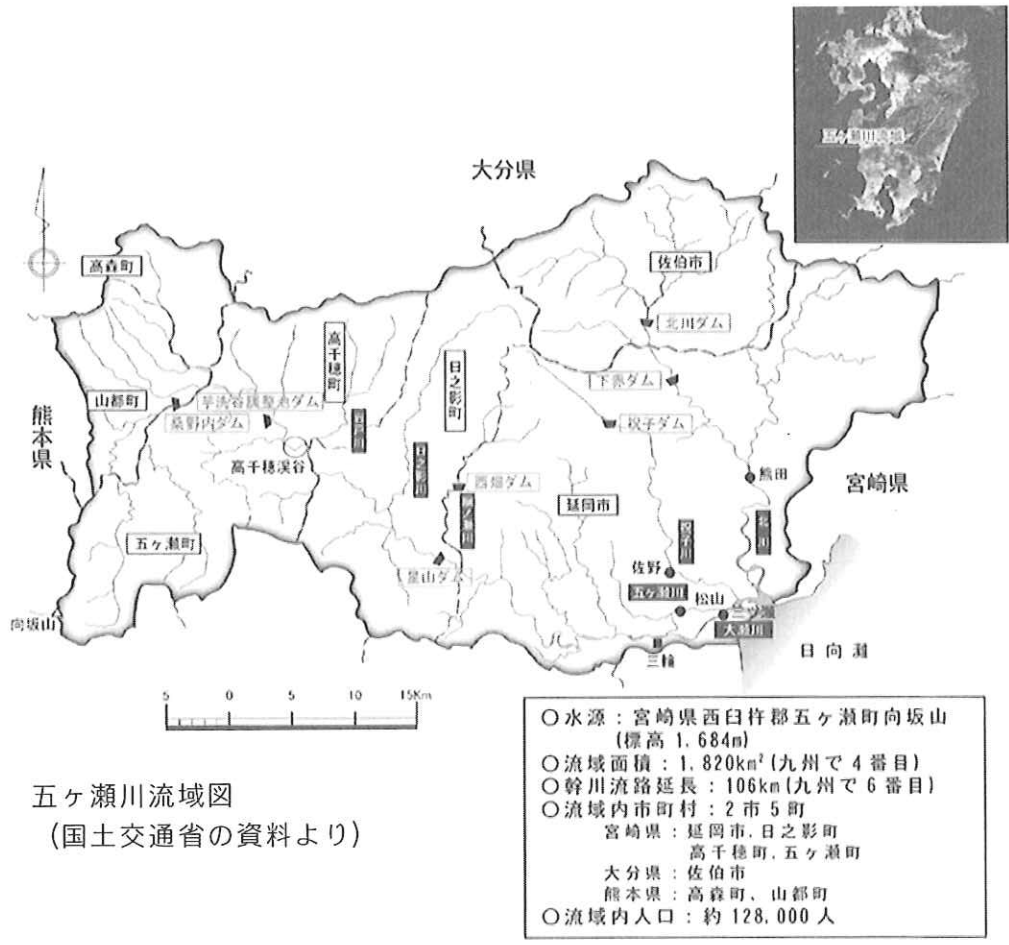
図 五ヶ瀬町マップ

2. 五ヶ瀬川流域

五ヶ瀬町から発する五ヶ瀬川は、一度、熊本県内を抜けた後、高千穂峡を形づくり、延岡市内で日向灘に注ぐ延長約 103km の河川です。延岡市の 300 年の伝統を誇る「鮎梁」は秋の風物詩として有名であり、昔から築場による鮎漁が盛んで、「全国水の郷百選」にも指定されています。

五ヶ瀬川を取り巻く山地はかつて薪炭材の産出地だったのでその搬出のため、

筏流しや船運が盛んな地域でした。現在では川で見かけられるのは、鮎漁に使う川船が主ですが、近年、子ども達を川に近づけるための「リバーフェスタ」というイベントも盛んになっています。



五ヶ瀬川流域図
(国土交通省の資料より)

ステップ4 地域住民の思いを受け止める

五ヶ瀬町住民の地域づくりの取り組みについて、団体とその活動内容を把握した上で、主な団体には聞き取りを行いました。

| 組織 | 地域 | 活動内容 |
|--------------------|-----|--|
| 夕日の里づくり推進会議 | 桑野内 | 農村の資源を活用し、都市との交流をとおして農村の環境整備を進める |
| 民泊部会 | 6区 | 農業を営みながら農家民泊を通じて体験交流活動 心のおもてなしを通して五ヶ瀬町（田舎）の良さを紹介 |
| パーククラブ | 6区 | 地域の素材を活かした女性の加工グループ 郷土料理・特産品の開発や研究と、商品の販売活動 |
| 雪だるま共和国 | 14区 | 地域住民との連絡協調による地域の振興の開発 地域農業のあり方、森林環境の整備など保全活動を展開 |
| 五ヶ瀬商工会長 （お茶生産者） | 3区 | 「商工会、商店街の活性化は都市との交流、地域づくりから」を実践して商工会事業の中で地域づくりや特産品の開発を進めている（新緑会） |
| 鞍岡まちづくり会議 | 11区 | 森林の紹介と地域の自然文化を紹介（インストラクター） 住民のつながりと子供たちとのふれあい活動 |
| 12区お宝保存会 | 12区 | 地域の資源を探し、地域住民で守る活動 |
| 荒踊り保存会 | 1区 | 国指定重要無形民俗文化財「荒踊」を通じて地域づくりを進める |
| 若桜会 | 2区 | 地域の伝統の継承と世代間の交流を深める活動 |
| 赤谷商店街 | 3区 | 商店街の活性化と住民との触れあい活動を展開 まごころ宅配事業。農業青年との異業種交流 |
| 五ヶ瀬太鼓保存会 | 5区 | 五ヶ瀬太鼓保存と継承活動。 学びの森の生徒への指導を通じ青少年育成活動 |
| NPO法人五ヶ瀬自然学校 | 10区 | 五ヶ瀬の自然・資源を活かした体験交流活動 子供からお年寄りまで参加できるイベントの展開 |

| | | |
|-------------------|-----|--|
| 女性農業指導士 | 11区 | 農業の魅力のPRと地域に密着した活動 農山村の女性の能力の開発と地位向上への取り組み |
| JA 青年部 | 6区 | 農業後継者と連携による広域農業活動 地域の農産物の生産・販売活動を展開 |
| 椎茸・畜産農家 | 1区 | 五ヶ瀬の基幹作物のリーダー的生産者として活躍 椎茸振興会会長。品評会入賞多数 |
| SAP | 1区 | 新品目の導入による花舟栽培専門農家の後継者 SAP 会員としても農業後継者と情報交換活動を展開 |
| イチゴ農家 | 14区 | 高冷地を活かした新規品目への挑戦 (夏秋イチゴ、さくらんぼ) |
| 林業（林研） | 1区 | 林業研究グループ会長であり、林業を専門として経営 森林の持つ多面的機能や森林保全活動 |
| 宮の原暖地営農むらづくり推進協議会 | 2区 | 地域の特色を活かし、魅力ある農村社会の実現に向け、 消費者（都市）との交流による村づくり活動展開 |
| 霧立越の歴史と自然を考える会 | 14区 | スキー場建設の発案者 やまめの養殖を日本で鼓初に始める 森林資源を生かした体験型の観光に取り組む |

■ NPO 法人五ヶ瀬自然学校（鞍岡） 杉田さん

- 杉田さんは、栃木県出身 東京でグラフィックデザイナーだった
- 冒険家の植村直己さんやカヌーイストの野田知介に憧れ、ワーキングホリデーを使って、カナダのユーコン川を域は自転車で、帰りは100日掛けてカヌーで下った。
- その後、北海道の自然学校に5年ほどガイドとして勤める。そこは、大人向けのプログラムで、いずれは子ども向けを行いたいと考えていた。
- 子どもたちの都会暮らしは、自然への感性を萎えさせる。海外では、長期キャンプの体験が行われる。
- 既に、親の自然教育力が低下している。これが、子どもたちの情緒不安定に繋がっていると考えている。これを何とかしたいと思い、プロの対応が必要との考えから「自然学校」を発足させた。
- 五ヶ瀬町には、5年前に移住した。自分の子どもが保育園の年長の時に自然学校を開校。当時はカヌー観光を中心とした。
- 初年度はカナディアン・カヌー2艇で始めて、のべ70名の参加 料金は、大人5000円子ども3500円
- 現在、カヤックが24艇、カナディアンが6艇 リピータも増えて、200人くらいとなっている。

- 五ヶ瀬川下流域で活動している「(特活)五ヶ瀬ネットワーク」の10艇を入れると40艇となる。バス1台分の団体にも対応できるようになった。
- 導入プログラムのステップアップとして、支流の「小川」でも活動をはじめた。
- カヌーイストは、鮎の釣り師とフィールドがバッティングするので、嫌われがちである。五ヶ瀬本流は、鮎釣りが盛んなので、支流に活動場所を移した経緯もある。地元の公民館が協力してくれて、トイレなどを準備してくれている。それは、カヌーで河川内のゴミ拾いボランティア活動を続けたことが評価となった。(日本たばこJTの助成金)4年目の活動。延岡市教育委員会の協力も得て、学校に参加募集チラシ8000部を配布している。(有料参加)
- メディアでは、隣の熊本の民放局などにも取り上げられている。
- 北海道と違い、水温が高いことでマーケットの作り方が異なる。阿蘇に来る客をターゲットにしていきたい。
- 冬は、スキーのインストラクターを行っている。桑の内地区では茶畑が盛んで、その労働力にもなっている。
- 森林環境の保全のため、仲間内で林業部会を発足し、商品開発を進めている。五ヶ瀬町は森林面積が多く、ほとんどが杉の建材である。
- 町内に移住してきたログビルダーと共に、間伐材の木材教室を展開している。建築許可の要らない小規模なログキャビンの間伐材で商品化し、販売している。下流の高千穂町や日之影町と出資している3セク会社「プレカットもくみ」に五ヶ瀬町の木材を持ち込み、キャビンのキットを作っている。元はグラフィックデザイナーなので、このような活動をホームページにして情報を束ねている。
- このキットを、五ヶ瀬町ブランドとして、どうやって売っていけばよいか課題。ここの材は、宮崎でも寒冷な環境のため品質が良く、宮崎県全体でひとくりにされるのはもったいない。
- 五ヶ瀬町の場合、経済のマーケットは、熊本だと思う。福岡も2時間半で行けるので近い。宮崎の県庁も2時間半掛かる。しかし、県境が壁となって広報一つも熊本のメディアに取り上げられにくい。
- 蘇陽峡周辺は、植林後の手入れされないため山が荒廃しつつある。川に土砂が堆積し、ヤマメの淵が埋まりつつある。
- 環境教育では、当初は参加募集に国交省の九州地方整備局の力を借りた。川に子どもの賑わいを取り戻そうとして安全な川遊びを進めている。参加する層に限られる中で、裾野を拡大するため、五ヶ瀬町内の小学校4つの5・6年生にアプローチした。五ヶ瀬町の前教育長は文部科学省からの出向だったので話が早かった。各学校の近くの河川で半日(3時間分)を使って、「セルフレスキュー(ロープ・着泳等)」「カヌー体験」を行っている。
- 最もやりたかったのが「冒険教育(6泊7日)」である。15名の子どもたちにスタッフ4名で対応している。参加はホームページを見たということで岡山からもあった。「子ども夢基金」の支援。内容は、流域全体をフィールドに、源流体験・沢登り・カヌー体験など。町役場から管理委託を受けている五ヶ瀬キャンプ場を中心に活動。
- 五ヶ瀬自然学校の拠点は、昔の役場の施設。ここは、子どもの居場所事業で地域の子どもたちが学校帰りに集まる場所となっている。
- 子育てしやすい環境作りを積極的に進めて、移住の促進に繋がりたいと考えている。町内には、宮崎県でも有名な中高一貫校がある。
- いま五ヶ瀬自然学校は、人件費の捻出が最大の課題。

五ヶ瀬自然学校について

●おもしろい ～自分らしさを探し求めて～

時代の急速な移り変わりの中で便利さに埋もれながら生活しているうちに、本当の豊かさとは何なのか分からなくなってしまう。五ヶ瀬自然学校が提供するプログラムを通して、豊かな自然、そこで暮らす人、文化、食と触れ合う事でその答えが見つかるかも知れない。本当の自分に出会い、自分らしい生活を始めるきっかけになるかも知れない。そのことが、求め続けた便利さの代償に犠牲になってきた自然環境の再生への第一歩となるのでは…

●ねらい ～人と自然、人と人をつなげる～

ブナの木など自然林が連なる「九州山脈」、清らかな水を選る「五ヶ瀬川」、南国でありながらパウダースキーが舞い降りる「五ヶ瀬ハイランドスキー場」、九州最古の4億年前の化石が眠る「祇園山」、伝統の青柳製釜炒り茶、日本一の生産量を誇る宮崎県産杉材、豊富な天然水、カヌーイースト、ログビルダー、木工家、農家、林業家、五ヶ瀬自然学校には豊かな自然と、資源、技を磨いた人がいます。私たちの貴重な財産を最大限に生かして、人と自然とのつながりを知り、人と人をつなげたい、本来のありかた、人のありかたを、私たちと共に探しましょう。



ロゴマークについて

五ヶ瀬自然学校の「おもしろい」、「ねらい」を実践するフィールドを表しています。魚は川の象徴であり、チベット密教(ラマ教)の寺院の門に刻まれているマークをデザイン化したものです。「good luck」と言う意味があるそうです。丸い山は九州山脈木の森のダムと言われるブナの木をイメージしています。

理事長略歴

- 1967年春／栃木県西那須野町に生まれる。
- 1993年～／デザイナーをしながら夏のみ剣路川のガイド会社ノーススイーストカヌーセンターでカヌーガイドを始める。
- 1998年／東京中野区でデザイン会社スタジオクリーク発足。
- 2000年／北海道弟子屈町に移転。
- 2001年／宮崎県五ヶ瀬町に移転。
- 2002年7月／「自然屋川人」(しぜんやかわじん)蘇陽峡、五ヶ瀬川、小川などでカヌーツアーを実施。
- 2005年3月／特定非営利活動法人五ヶ瀬自然学校設立。初代理事長に就任。

理事長あいさつ

1980年、ワーキングホリデービザを取得しカナダへ渡り、マウンテンバイクや、トレッキング、カナディアンカヌーで旅をし、またネパール、インド、中国、台湾、タイとアジアの山を中心に、国内は元より世界の秘境を旅し現地の人々と積極的に交流してきました。

そんな私が将来の仕事として目指した物は「自然学校」の設立運営です。私がこの道にのめり込むきっかけとなった一人、植村直己氏も自然学校設立を目指していました。もちろん私なりの、誰でもが参加できる自然学校です。子どもたちをもっと外で遊ばせたい。私も一緒に遊びたい。将来は世界を旅する子どもたちになってもらいたい。そんな思いをこめて、2005年3月／特定非営利活動法人五ヶ瀬自然学校設立。五ヶ瀬の恵まれた自然の中で、地域の農家、林業家、ログビルダーの方など、地域の皆様のご協力を得ながら、五ヶ瀬自然学校を盛り上げていければと思っています。

特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校
理事長 杉田 英治



■ 五ヶ瀬町商工会長（新緑会）小笠さん（町会議員）

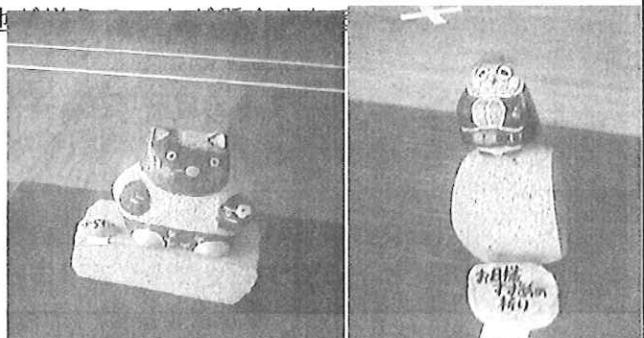
- 農家の女性
- 農村女性指導員だった。
- その活動の中で、上流に住む人の意識で下流の人の意識が変わると感じた。以前、琵琶湖の汚染問題を聞き、家庭排水をテーマにしたとき、漁師の人に来てもらったことがある。海底には、空き缶やビニールなどが堆積し、漁獲減少に繋がっている。上流から川をきれいにしていきたい。発電も風力などを考えていけないか。
- 茶畑を持っているが、有機化が進んでいる。1件ずつが変わることは、地域が変わる上で大切。
- 昔は五ヶ瀬川で泳げた。「水回廊」づくりとして、延岡の人が山に木を植えることも大切ではないか。
- いろいろとあって、商工会から女性部会がなくなってしまった。(女性の商工会長

でもある小笠さんとしては) 復活させたいと思っている。

- 地球規模で考え、地域から行動することが大事だと思う。
- 水、山、米、お茶がある。有機の取り組みを行っており、味わえるまちづくりをしたい。
- これからの農林業は、ここに来てもらって外貨を稼ぐことが必要だと思う。バイオマスの循環型農業を推進したい。そうすれば、肥料代も他所に出さなくて済む。
- 今後のまちづくりをどうしたらよいか、今のところピタッと来るものがない。観光協会がしっかりした専門組織となることが必要だと思う。五ヶ瀬町の人の“粋”が伝えられない。(観光協会の財源確保へ)
- 町民が町内を知らない。「町内ツアー」を実施してみたいと思っている。自分があるそこにはいること(当事者意識を持つこと)が第一歩。例えば女性が暗いと食卓でのご飯も美味しくない。夕日の里地区は、女性が輝いている。他の地区が夕日の里地区を見て欲しいが、なかなか行きたがらない。点が面になっていくこと、人と人のつながりを作ることが必要だと思う。小売店舗の町としては、大型店舗に出来ないことを進めなければならない。
- 町民一人ひとりが広告塔となることを意識させたい。口コミ効果を活かしたい。
- 五ヶ瀬のスキー場も季節ごとの景色の楽しみ方があると思う。
- 中学生に茶摘み体験をさせている。外に出て体験することで気づくことは多い。
- 観光ガイドを養成したいと思う。
- スーパーの商圈は、30分程度なので、高千穂くらいまで。1時間半で延岡にも行けるが、熊本市内にも行ける。
- 県境を越えるという意味では、熊本の間人にとって、五ヶ瀬は距離感を感じるようだ。熊本からのマーケット開拓をしていきたい。
- 水と暮らしという面では、鞍岡地区のお米が新潟魚沼産よりもおいしいとの評判である。(トレーサビリティの確保)
- 米については、大阪の伊勢丹で「おにぎり」の無料配布を行った。
- 鞍岡地区に「ヤマメの里」がある。健康、ダイエットといったニーズが高まっている。町内の病院と連携して、民宿でヘルシーな料理を出して、「歩く」ことをテーマにしたツアーを組んでみたい。(町役場から、病院に打診した結果、協力の余地有りとの反応)
- ダイエットのモデルさんなどを招いて農泊をやってみるとか。農泊では、受け入れ側よりも、来訪者の方が不安を抱えている。自分の食べられるものが出るか、静かすぎて眠れるか、農家の方とうまく接することができるか、など。特に若い子たちから、そういう反応を聞く。
- 町を歩いてもらうことで、来て頂いた方に五ヶ瀬を発見してもらいたい。そして、地産地消の町としてすばらしいものを都市に向けて口コミで発信していきたい。
- 商売は、人が動いてナンボの世界。人の顔が見えるところまでの努力が必要である。
- 高齢化が進み地域に荒廃した土地

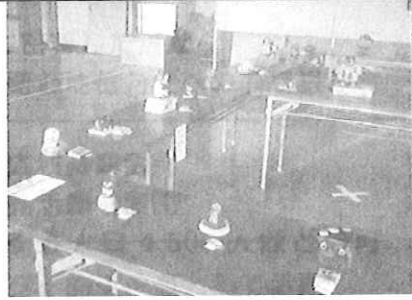
■ 石の彫塑アーティスト 奥村さん

- 宮崎に拠点(家族在住)
- 五ヶ瀬とは11年目の付き合い。



夏は、長野にいる暮らしが続いたが、今は、五ヶ瀬となった。

- 動物（主に猫）をモチーフに、石を刻む。最近になって犬を彫るようになった。それは、とある男の子の自殺から。
- 猫は、自分の心地の良い場所を見つける力がある。犬は、人に忠実なところがあるので、あまり彫ることはなかった。男の子の自殺から、いつもそばにいる存在として犬を彫ろうと思うようになった。



■ 雪だるま共和国 秋本良一さん（秋本産業～建設土木会社社長） 今は、農業法人も併設 14 区の区長 公民館長

- 20 年前に国有林内でスキー場開発の話がおこり、地域として協力することが地域づくりに関わるきっかけ。スキー場内に売店を出店していた。その運転資金は集落から各家 3 万円の出資金でまかなってきた。昔は、儲かり貯金できたが、今は、赤字補填で貯金も底をつきつつある。
- それまでは、出稼ぎの集落だった。毎年 10 月の村祭りになると、今年はどこに出稼ぎに行くかが話題となったほど。
- スキー場は何が何でも実現して欲しかった。当時、五ヶ瀬町は宮崎県内ですら知られていない土地だった。まして、雪が積もることなど知られていない。そこで、雪を売れば話題作りになると思った。
- 毎日新聞の宮崎支局長から電話を頂いた。五ヶ瀬町には図書館がないという投書をもらったと。地域あってこそ我々がある。文化を大切にしたい。ここには、神楽や棒術という古来の伝統がある。
- 雪だるま共和国は、家庭排水を考えることから地域振興を進めた。中核は 10 人ほどである。初代大統領は、秋本良一さん。
- 時と共に高齢化が進む、自分たちが役付となる。先輩たちが取り組んできた集落自治の問題と、自分たちのこれまでの活動がオーバーラップしつつある。
- 集落の祭りの際に、コミュニティバスの臨時便を出してもらい、飲酒問題の解消など。
- 福岡の子どもたちとの交流会や、防災の取り組み、自然を生かして暮らしていくことなどを大切にしたい。
- 集落の地域づくりで、いろいろ挑戦できたのは、先輩たちが応援してくれるから元気にできた。自分たちの村は自分たちで守ろうという意識がある。2 年前には、地域づくり協議会で、五ヶ瀬から延岡の企業などを巻き込んで水フォーラムも開催した。
- これまで、地域の自然を生かして活性化に取り組んできた。自分の子どもや孫たちが帰れるような地域にしていきたい。
- 建設業も厳しく、農業法人を設立した。老人施設や老人クラブの協力を得ながら夏野菜を生産している。ここには、ウドやタラの芽などいい山菜が育つ。老人は、野菜の市中づくり一つも、智恵と技を持っているので、コストダウンにもなる。
- 農業法人は、もっと地域の人を巻き込んでいきたい。JA 農協とぶつからない程度に。出荷量は、例えばピーマンが週に 1.5 トン程度。出荷先は、岐阜など多様。
- ここ鞍岡地区と桑の内地区（夕日の里地区）の違いについて。桑の内地区は、農泊に取り組み地域全体でもてなしを行って、福岡市にファンクラブも生まれてい

る。鞍岡は、だいぶ以前から活動が始まり民泊を行っているが、個々の取り組みで、次第に衰退傾向。

■ 霧立越歴史自然 秋本さん II フォレストピア

- 鹿が異常繁殖している。草を食べ、表土が現れて土砂災害に繋がる。
- 里山の農林業を大切にしていくべき。
- 子どもたちに自然のことを伝えられていない。それは、子ども時代に自然を経験する機会が減っていること。
- 国交省とも関わりがあるが、技術者たちが川のことを知らないで、河川計画や設計を行っている。自然を見る目を養うことがとても大切である。
- 基礎研究を行うことがないがしろにされている。地質も食性も昭和30年代の基礎調査結果にとどまっている。研究者も目先の成果に追われて力量が下がっている。
- 地域活性化に必要なことは、民俗芸能を磨くべきである。
- 五ヶ瀬町は、4億3千万年前の地質が残っていることから、九州発祥の地と言われている。地質学会でも五ヶ瀬の研究結果が発表されており、それをストックするだけでも大きなことである。
- 修験道の歴史がある。これらを観光の資源に繋げるべきである。地域資源を磨くべきで、発表の機会を確保していけば補助金はなくとも、新たな活性化に繋がられる。町役場が観光に乗り出すことは民業の圧迫である。
- 今までの農林業では成立しない時代である。着地型観光の取り組みをすべきである。宮崎フォレストピア構想の圏域として、特長を生かすべきである。旅行業法も改正され、近隣地区対象なら旅行代理店業務を地元でできる。

■ 夕陽の里推進会議 佐藤誠志さん 物産館（ワイナリー）

- 福岡にファンクラブ
- 農泊される方は、農家の人とうまく接することができるだろうかと不安を抱えながら来る。
- 農業は人口の過疎を抱えている。都市は、心の過疎を抱えている。農泊は、それを相互に解消する取り組みだと考えている。
- 今の取り組みは口コミで広がればよいと思う。損得を追い始めて、経済的に傾きすぎてはいけないと思う。
- 農業では、茶畑やブドウ畑の体験をしてもらい、農泊のプロとなっていきたい。
- 地区にあるワイナリーの後背斜面では、植林が手入れされていない。これを広葉樹林化していく必要があると思う。しかし、この山の手入れのためにプロに払うお金がない。
- 今の課題としては、地方文化、農文化、村文化、食文化などを次世代に継承していくことが必要となっている。田舎とはいえ、地域の文化を知らないままに育っている。
- 農山村が都会と同じように文化が失われている。親の世代（70代）が生きている内に継承していく必要がある。自分たちでは、山の手入れが出来ないことから、自分の山を知ることから始めなければならない。
- 夕陽の里のターゲットは、福岡市民である。手探りで進めてきた活動も来訪者の反応の良さを感じる。定番のプログラムが出来つつある。マンネリ化しないように努力も必要。

- 農泊は、来訪者が農村の現状を認識する良い機会だと思う。
- 福岡市内にできた「五ヶ瀬町人会（180名）」に、五ヶ瀬町出身者はいない。夕日の里を訪れるリピーターの方々による一種のファンクラブである。交流の深まりは、ここ5～10年の積み重ねによるものである。
- 交流を通じて、地元が元気になってきた。自分たちの出身地を、胸を張って言えるようになってきた。農村の元気が都市住民の元気に繋がると思う。
- 夕日の里も、立ち上げ当初は、ハードづくりの話になりがちだった。しかし、よく考えると、ハードは一過性で後の身にならない。開発すべきは人の意識だと感じてきた。
- 過疎化高齢化を打破するには、行政批判ではなく、自分たちの地域は自分たちでという気概である。まず、地域の宝物探しに取り組んでみた。その中で、夕日がきれいであることを大切だと感じた。
- 始めは関係者間に温度差が大きかった。まわりの事例を反面教師としたので、人々を取り込んでいく活動を行い、みんなの底上げを図った。このような頑張りの経過の中で、ワイナリーの話が来たり、農泊の話に繋がったりした。結果的に経済効果が付いてきた。
- 強制的な参加を求めた部分もあり、当初は、なぜでなければならぬかと不満もあった。しかし、都市住民との交流の中で、喜ばれることが、本人たちの気持ちを変えていった。
- これからは世代交代が課題となる。子どもたちには、「こんなに良いところだから、おまえたちも残れ」といえるようになってきた。昔は、「こんな山の中、世間が渡れないから都会に出る」この10年で意識が大きく変化している。
- 到達点はまだ3合目という感じ。やっと農泊の基盤づくりである。経済効果もまだではじめたところ。ヨーロッパのツーリズムのように次世代がリピーターになるまで、上の世代から次の世代がノウハウを学んでいかなければならない。
- おもしろいから参加し、続くのであって、何がおもしろいかはともあれ、息子に楽しんでいる姿を見せていかなければならない。

■ バーバー倶楽部 宮崎麗子さん バーバー倶楽部

- 趣味の延長で始めたこと。
- 農家の女性たちによる物産づくり。
- 今は8名の女性が中心となっている。
- ワイナリーや町の物産販売場所に降ろしている。
- 人気は、かりんとう。お漬け物も。
- かなり口コミで広がり、注文が多いため、とても忙しい。
- 新宿の「こんね」にも出している。
- いまは、ほとんど人件費も出ていない。少しずつ経営を自立化させて、少しでも払えるようにしたい。
- ここまでやってこられたのは、周りの人々の助力のお陰。製造設備一つも、導入とメンテナンスが大変。いろいろなアドバイスが必要だった。

■ 暖地営農村づくり 飯干国光さん ふれあいの里

- 10年ほど前まで、全国的にも評価された地域づくり
- 現在は世代交代して、停滞気味

- 宮崎市内の生協との交流は継続

■ 五ヶ瀬町役場

- これまでのまちづくりは、いろいろな動きがあるものの、全体として体系的に取り組めていない。五ヶ瀬自然学校のような取り組みもあるが、まちづくりとうまく繋がられていない。(宮崎大学の先生からも指摘されている)
- 五ヶ瀬川をきっかけに、源流でしっかりした活動を起こしたい。
- 延岡の旭化成の企画セクションとはつながりがある。旭化成の CSR で、森づくりに取り組まれている。
- 10月に源流シンポジウムを開催。下流域に大都市のない流域としての水源地域の活性化について議論をしていきたい。大和川で遊ばせる商品作りや町内の川マップづくりなどを考えたい。
- これまでにも化石ツアーなどを行ってきている。古い地質なので、アンモナイトの化石が出ており、宮崎県庁に飾られている。
- 農産物は、お茶、キュウリ・トマト、インゲン・椎茸など。農協組織も森林組合も、五ヶ瀬町・高千穂町・日之影町で一つとなっている。
- 酪農は繁殖農家が 14 件、高千穂牛、宮崎牛として出荷。
- 五ヶ瀬プラン (?) 卵を使って、福岡市の和菓子の老舗石村まんせい堂で和菓子に。
- 五ヶ瀬ワイナリーは、町と雲海酒蔵、JA で出資した 3 セク。工場 5 名、売店 3 名、レストラン 5 名の雇用。
- 宮崎県で森林環境税をスタート 年間 500 円を漁民の森や町有林、学校林などに投入予定。
- 下流域の北浦漁港とのつながり。ハマチ養殖、伊勢エビ、鯖、カンパチ、鰯など。
- 雲海酒蔵は、G カップサッカーという取り組みを行っている。ここに大会を誘致しており、町も後援を行っている。
- 五ヶ瀬の付き合いは、高千穂・日之影の他に、隣接する椎葉村との関わりがある。
- 町としては、人口減少率が近隣よりも少なめである。

ステップ5 SWOT分析を用いて地域の実情を認識する

五ヶ瀬川流域の一体化による水源地域の活性化を考えるために、関係者による地域分析を行いました。

交流人口の拡大に向けて
外部環境の変化（マクロ要因）

| 項目 | 内容 | 五ヶ瀬川流域活性化にプラスと思われる外部環境の変化(上段) 五ヶ瀬町活性化にプラスと思われる外部環境の変化(下段) | 五ヶ瀬川流域活性化にマイナスと思われる外部環境の変化(上段) 五ヶ瀬町活性化にマイナスと思われる外部環境の変化(下段) |
|----|--------------------------------|---|--|
| 社会 | 価値観 ライフスタイル 人口動向 自然環境 | ライフスタイルに個々の価値観を求める者が多くなってきている。 ITターン希望者が多くなってきている 都市との交流や地域振興策のとして、 国県の助成事業が多くなってきている。 観光ニーズが多様化し、見る観光から 体験等が加わってきている。 | 地域の高齢化が厳しい 集落により高齢化率が非常に高い |
| | | 少しずつITターン希望者が出てきている ITターン希望者あり 人口減少が緩やか | ITターン受入れ住宅、空家の不足 高齢単身世帯が多く都市部への 転出が見られる |
| 経済 | 景気 | 大企業の業績は好調 | 景気は全体的に低迷 五ヶ瀬川下流の延岡市商業の 低迷 |
| | | 農業部門では畜産が健闘 | 景気は全体的に低迷 林業の長期低迷 建設業の低迷 商業の低迷 商店閉鎖 |
| 産業 | 産業構造 好不況 | 旭化成の業績上昇 建設業の異業種参入 | 商業の低迷 商店街の衰退 |

| | | | |
|---------|---------------------|--|---|
| | | <p>農業部門でお茶、果樹、肉用牛の後継者経営が安定し、後継者多い 高冷地の気候を生かした独創的な農産物の生産が可能 小量であるが林業で住宅メーカーと直販体制がつくられている 酒造メーカーの業績が伸びてきている ミネラルウォーター製造販売が伸びてきている 地域の農産物を加工した特産品の開発が進んでいる 天皇賞、農水大臣賞受賞のお茶(釜入り) 県乾し椎茸品評会優勝 農泊による新たな産業 米の食味が好評(米の直販の可能性はある) 都市との交流による新たな産業が創出できる 建設業の異業種参入</p> | <p>農林業従事者は高齢化しており離職が進んでいる。 大部分が小規模な農業経営 農業の多角経営が多い</p> <p>山間地であることから規模拡大が困難 商店街の衰退 商店の閉鎖</p> |
| イノベーション | 技術革新 | | |
| 社会基盤など | 道路整備 公共交通 その他 | <p>御船から、熊本県山都町までの高速道路が整備予定 延岡～北方までの自動車専用道路開通 阿蘇からの入込み客が急増(国道325号線)</p> <p>県道竹田線の改良が平成22年度に終了予定 コミュニティーバスの運行が始まった 熊本空港まで70分 熊本駅まで90分 九州新幹線の開通</p> | <p>九州横断道路延岡線の延岡からの建設終了が不明である</p> <p>公共交通の撤退によりコミュニティーバスを独自に運行している コミュニティーバスの運行が終末は行われていない 高千穂入込みのR218利用者の減少</p> |

交流人口の拡大に向けて

外部環境の変化（ミクロ要因）

| 項目 | 内容 | 五ヶ瀬川流域活性化にプラスと思われる外部環境の変化(上段) | 五ヶ瀬川流域活性化にマイナスと思われる外部環境の変化(上段) |
|----------|----------------------|---|--|
| | | 五ヶ瀬町活性化にプラスと思われる外部環境の変化(下段) | 五ヶ瀬町活性化にプラスと思われる外部環境の変化(下段) |
| 市場 | 市場規模 規制緩和 商品価格 | 国道の改良が進んでいる 高速自動車道の整備計画あり | 米の自由化により米作に意欲低下が見られる。 |
| | | 有機野菜をネット販売するようになった 熊本県福岡県など九州の大消費地が近郊にある。 夏季野菜の生産は他の生産地と特化ができる。 建設業者異業種算入による農業法人参入 | 消費地までの搬送に経費がかかる。 情報を利用した販売が遅れている。 |
| 顧客 | ニーズと 変化 | 新たな観光ニーズに対応できる広域観光協議会の組織 1・五ヶ瀬川水回廊倶楽部 2・フォレストピア広域観光協議会 3・九州ハイランド協議会 4・西臼杵郡内での新パッケージ事業の取り組み 5・ひむか神話街道県北協議会 新鮮な食材と安全な食材が求められる | |
| | | 新しい観光ニーズに答えられる観光資源(景観、体験、食)が豊富である ワイナリー(3セク)の開業で町外からの入込み客が増加してきている スキー場の入込み客は年間50,000人を超えている 林業の直販体制が図られてき始めた。 | 観光資源を生かしきれない。 観光資源のPR不足 観光資源のPR方法が整理されていない |
| 競争 相手 | 相手の戦略 | . | |
| | 行動 新規参入 | | |

交流人口の拡大に向けて

内部環境の変化

| 項目 | 強み 五ヶ瀬川流域(上段) 五ヶ瀬町(下段) | 弱み 五ヶ瀬川流域(上段) 五ヶ瀬町(下段) |
|---------------|---|--|
| サービス 資源 | 森林を生かす取り組みがされている。 | 資源は豊富であるが、収入につながらない |
| | 森林資源が豊富 神楽、棒術、荒踊り等伝統芸能が多い 山菜、きのこ等 全体的に水資源が豊富 物産加工品販売所 五ヶ瀬ワイナリー 五ヶ瀬温泉木地屋 夕日の里物産館 物産販売所カジカの里 無人販売所多数 | 森林の荒廃で保水量が減少 山菜、きのこの知識が継承されていない |
| PR マーケティング | 下流域に延岡市人口130,000人を有する消費地がある | 広域的なPRも県内が中心で他の県への取り組みが不十分 |
| | 農産品、加工品、観光資源が豊富である 本町に対する人的応援団が多い 1・福岡町人会 2・東日本町人会 3・福岡二科会(写真) 4・マスコミ(西日本新聞、西鉄広報) | 農産品、加工品、観光資源ともPRが不足している 各種製品や資源の整理がなされていない。 パッケージなどが整備されていない 販売経路が確立されていない ニーズにあった販売商品や観光資源の整理が不十分である。 県境に接した地域であることから県を越えたPRが不十分 |
| 人材 組織 | フォレストピアPIA(インストラクター) 九州ハイランドインストラクター協会 | 収入につなげていないため意欲が低下してきている。 |
| | 地域づくりに対する町民の意識が芽生え始めている 1・夕日の里づくり推進会議 2・鞍岡地域づくり活性化委員会 3・赤谷商店街活性化委員会 4・暖地営農村づくり(宮野原、中村、戸川地域) 5・第14区地域づくり団体 6・NPO五ヶ瀬川自然塾 7・地域リーダーは豊富 | 地域づくりのリーダーは多いが、夫々で活動し一体感にかけている。 営業やPRを一体化させることができていない 即収入につながらないため意欲の低下が懸念される。 |

| | | |
|--------------------------------|--|--|
| <p>技術 ノウハウ</p> | <p>下流の延岡市に旭化成(株)が立地し、各種の技術を要している。</p> | |
| | <p>酒造会社、ミネラルウォーター製造販売会社があり、各事業に協力体制が確立されている。 お茶、肉用牛、しいたけ、花卉、野菜等農産物の栽培技術は高いといわれている。昔からの暮らしで培った技術や知識を有している健康的な高齢者が多く、生産活動や地域づくりのリーダーを担っている人材も多い。</p> | <p>技術の重要性や価値に対する認識が少なく 自治体側からは利用していく能力を持たない。高齢者の持つ技術が活かされていない。</p> |
| | <p>農産物を含む食の安全に対する意識が高まってきている。(国内産が有利) 健康志向の中、木造住宅、木が見直されている。 観光産業が総合産業として位置づけられてきた。 観光産業や地域振興については、国、県の積極的な助成制度が設けられている。</p> | <p>各種の産業とも低迷が続いている。 商業地域外に大規模店舗が建設され商店街の空洞化が見られる。</p> |
| <p>生産 (第1次産業から第3次産業まで)</p> | <p>(農業) 農業所得が低迷している中、お茶、花卉、畜産、しいたけ等の生産者の一部であるが経営が安定し、後継者が残っている。 農産物の中で優良生産物が多数ある。 (林業) 住宅供給会社との直販に取り組んでいる。 ログハウス工房があり、若者が積極的に建設や販売、普及に取り組んでいる (商業) 特色ある販売方法で伸びている商店がある 商店街の活性化を考える組織が生まれた。 (建設業) 農業法人を取得し、異業種参入する建設業がある。 異業種参入の意識が高くなっている。 (製造業) ミネラルウォーター(日向天照水)が雑誌で日本一と評価された 五ヶ瀬ワイナリーの「ナイアガラ」種が国産ワインコンクール北米産白ワインの部で最優秀カテゴリー賞受賞 NPOと供に農業や林業の復旧に取り組んでいる 小規模の特産品加工グループが製造販売業として成り立ち始めた。</p> | <p>(農業) 農業所得の減少 少量多品目経営のため 技術が分散している (林業) 価格の低迷により、整備が進んでいない。 低い価格で販売がなされている。 林業に対する意識が低下してきている 高齢化が進み後継者が極端に不足してきている (商業) 販売、意欲とも低迷している。 閉店が多くみられるようになった。 閉店予備軍が多い 元気な商店が他町へ転出 (建設業) 異業種への参入を余儀なくされている。 建設業を閉鎖したところが出てきている。</p> |

| | | |
|------------------------|---|--|
| | <p>伝統芸能が豊富に残されている。</p> | <p>自治体内の資源で終わっていて、時空的な総合的な整理が出来ていない。</p> |
| 文化 風土 | <p>古来の風習や食文化が残っている 歴史的にも貴重な伝統芸能が残されている。 (神楽、棒術、臼太鼓踊り、荒踊り、) 4億3千万年前のサンゴの化石からアンモナイト、巻貝、2枚貝など歴史をつなぐ化石が発見されている。 九州南限の広域的な、ぶな林 冠嶽の88ヶ所大師さん</p> | <p>団体によっては高齢化が進み継承が困難 地元で鑑賞、地元で利用など、外部発信が出来ていない。</p> |
| 景観 | <p>五ヶ瀬川溪谷(高千穂峡含む) 夕日の里からの景観 杣形山からの景観 巨樹多数 町内を流れる清流 浄専寺のしだれ桜(町内多数) 三ヶ所神社の石楠花 夕日の里からの雄大な景色 白岩山向坂山の樹氷 町内全域紅葉(紅葉スポットが多い) 鞍岡地区の桜植樹 鞍岡棚田の彼岸花植え込み</p> | <p>すばらしい景観や、資源を使いきれ ていない。</p> |
| 福祉 | <p>広域での福祉行政に取り組んでいる。</p> <p>五ヶ瀬町国保病院(自治体病院)を運営している</p> <p>3世帯の家族が多く家庭で介護するケースが多い 民間の保育所、幼稚園が無いことから保育所は公設で保育が平準化されている。 町内の児童から高齢者まで参加して、「時間通貨」の取り組みが始まった。 思いやりGネットワーク(JA、郵便局等)、生活状況調査(郵便局)で郵便物、荷物等を配布する際に、高齢者世帯などの見回りを行なう。</p> | <p>福祉施設が少ない</p> <p>高齢者施設が少なく、町外の施設に入所している。 入所待機者が多い 家庭での介護に限界がある。 「時間通貨」の導入当初のため利用が見えてこない。</p> |
| 環境保全 環境創造 (含む環境) | <p>環境保全を意識したNPOの活動が盛ん 川の清掃や川を生かしたレクリエーションの取り組みがされてきた。</p> | <p>全体の活動には至っていない</p> |

| | | |
|-----|---|--|
| 教育) | <p>フォレストPIAによる植林 植林ボランティア 向坂山白岩周辺の希少植物を守るため、鹿食外防止ネット設置</p> | <p>環境関係のボランティア意識が低く協力者が少ない。</p> |
| 観光客 | <p>高千穂観光入込み客数の急激な増加 国道の整備 新パッケージ事業により、観光産業を目指す人材育成を行う。 フォレストピア広域観光の取り組みの中で 新しい観光ニーズに対応できる人材育成、観光商品を開発する</p> | <p>住民意識がまだ希薄である。 行政にノウハウが無い</p> |
| | <p>新しい観光ニーズに対応できる観光資源が豊富である。 入込み客数が32,0000人を超えてきている。 スキー場、ワイナリーを利用したPR効果により県外から入込み客が増加してきている。 森林資源など多くの観光資源を有している。 NPOの参加で森林、スキー場、川を生かした観光客の取組みがなされてきた スノートレッキング</p> | <p>受入れ体制の不備 PRが不十分 観光案内所が未整備 観光資源の整理 観光資源の掘り起こし 観光に関する人材の育成</p> |
| 食材 | <p>標高差が大きく山菜から海産物まで食材は豊富である。 蜂料理の提供(西臼杵地方)</p> | <p>個々の地域で取り組んでいる</p> |
| | <p>気候を利用したお茶や高冷地野菜 新鮮な野菜が供給できる 伝統的な料理をまとめた「四季の御膳」 ヤマメが宮崎県のブランドに認定された 五ヶ瀬緑(釜入り茶) しいたけ 森林内のきのこ 山菜が豊富である。 猪、鹿料理(鹿のウインナー、ハムの商品) 煮しめ料理 雑穀 地鶏の卵(福岡の菓子製造業に納品) キムチ(韓国の人による) 漬物(加工品) ブドウ(五ヶ瀬ワイン)</p> | <p>農産品や山菜を素材にした加工品の開発が不十分である。 良質の食材は多いが、PRまたは営業活動がうまくできていない 流通が確立されていない。</p> |

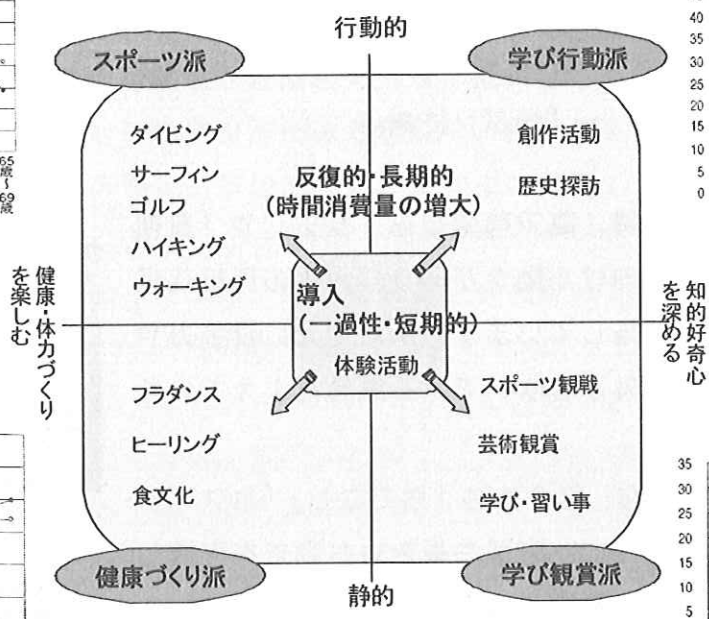
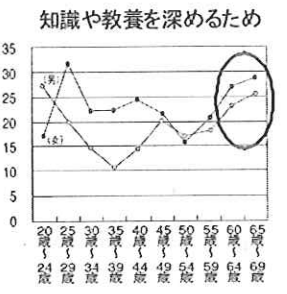
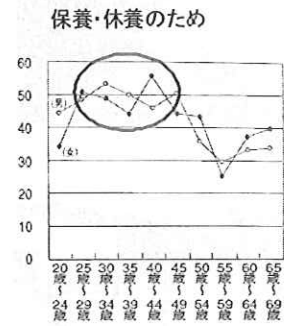
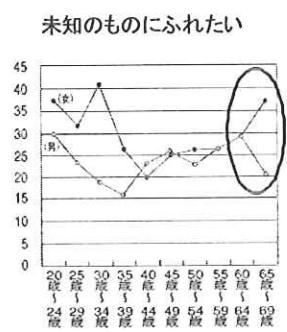
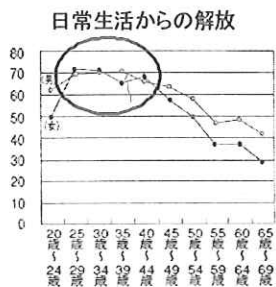
五ヶ瀬町と五ヶ瀬川流域の地理的關係性

| 五ヶ瀬町から | 自動車 | | 電車 | | その他の方法 |
|-------------|--------|--|---------|--------|------------|
| | 車で、何時間 | 利用条件のメモ ・一般道のみ ・高速道路併用の場合(通常、使用するインターチェンジ) | 電車で、何時間 | 最寄り駅は? | 利用条件 |
| 宮崎市まで | 3時間30分 | 一部自動車専用道路 | 3時間 | 延岡駅 | |
| 延岡市まで | 1時間30分 | 一般道のみ | なし | | |
| 阿蘇まで | 40分 | 一般道のみ | なし | | |
| | | | | | |
| 熊本市まで | 1時間30分 | 一般道のみ | なし | | |
| 福岡市まで | 2時間30分 | 一般道 高速道(御船インター) | 1,5時間 | 熊本駅 | |
| 東京まで | 15時間 | 高速道(御船インター) | 9時間 | 熊本駅 | 航空便 3時間 |
| 大阪まで | 10時間 | 高速道(御船インター) | 6時間 | 熊本駅 | 航空便 3時間 |
| 宮崎県以外の県庁所在地 | 3時間 | 高速道(御船インターor松橋インター) | | | |

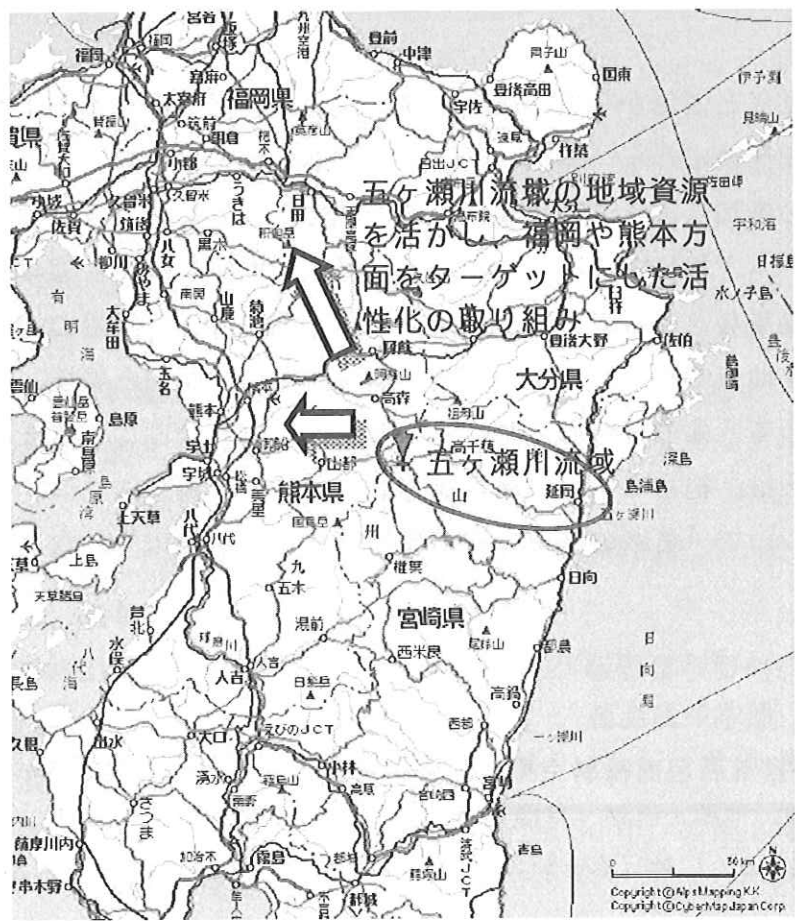
世代と性別から見た観光スタイルの分析

次表のように、観光は、世代や性別によって行動のスタイルが異なります。

このため、五ヶ瀬町の地域資源を活用した観光を考えていく上で、全てに同じプログラムではなく、世代や性別を考慮した観光プログラムを構築する必要があります。



五ヶ瀬川流域の場合、流域内のマーケットにとどまらず、九州の中での五ヶ瀬川流域として、福岡や熊本方面をマーケットとして捉えていきます。



ステップ6 活性化に向けた戦略仮説を構築する

五ヶ瀬川流域の場合 ～「学ぶ」に焦点

東国原知事就任以降、高千穂周辺を「歴史」や「長期滞在」の観光促進に向けた動きがあり、大手の旅行代理店や広告代理店が関与しています。また地元で資金力や技術力が弱い中で、外から吹いている風を捕まえていくことが重要です。

五ヶ瀬町では、現在、町全体の「もてなし」「ホスピタリティ」の向上に向けて、町民を巻き込む動きを形成しつつあります。また、県境を越えた熊本県側の隣接自治体も地理的に連続していることや歴史的には同じ生活圏であることなどから連携を強化しつつあります。熊本県側の自治体との連携が強化されることは、熊本市方面へのプロモーションのルートを確保することにもつながります。

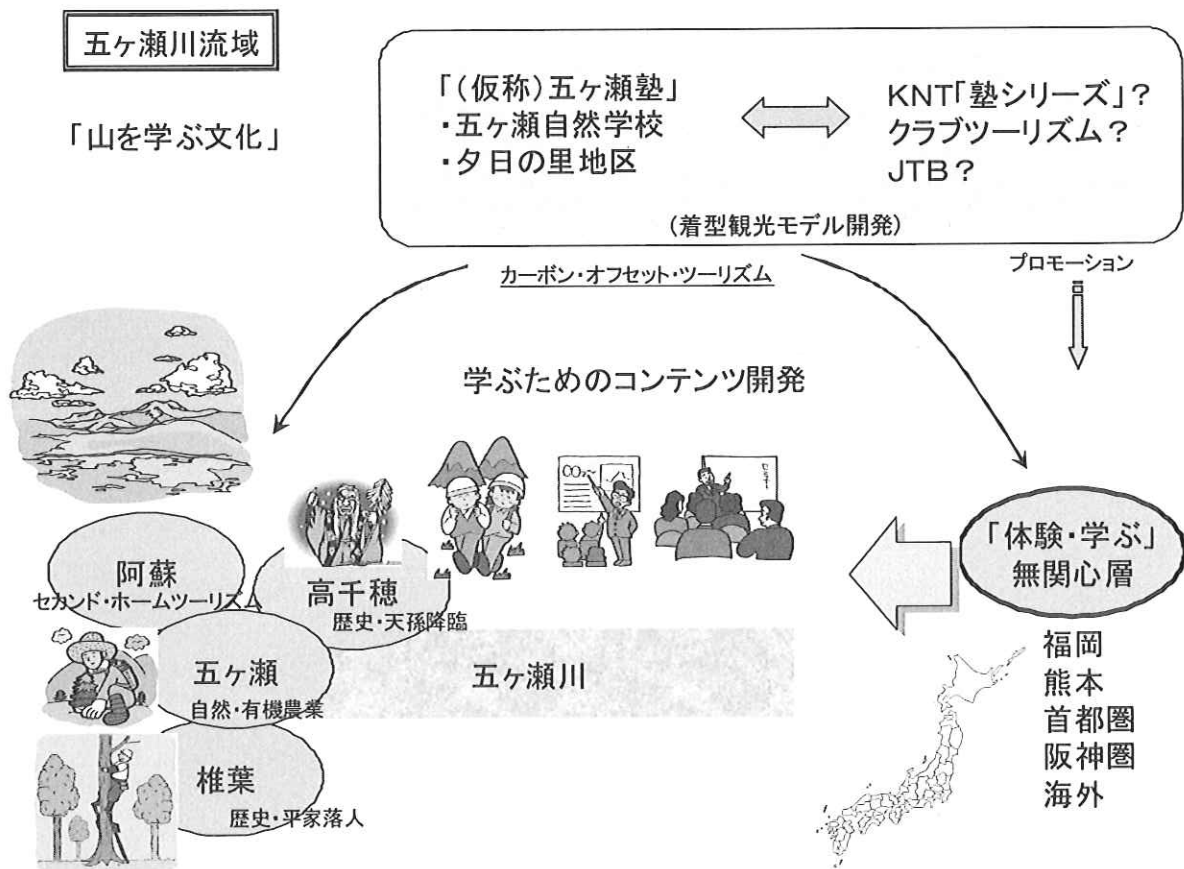


前述した世代と性別から見た観光スタイルの分析にも見られるように、観光スタイルは、物見遊山から「体験・学び」へと進化しています。また、旅のスタイルもツアーの参加による送客型観光から現地に行ってからコンテンツを選択する「着型観光」へと移りつつあります。五ヶ瀬町は地質学的・生態学的には全国的にも非常に貴重なところであり、隣接する高千穂町は天孫降臨の地として日本の歴史上重要な地域です。このような五ヶ瀬川流域の「歴史と環境」への関心をコンテンツとして、知的好奇心の高いマーケットに働きかけていきます。このようなマーケットは、総じて所得の高い層でもあります。将来的には、ロコミ（レピュテーション）で「日本の歴史・環境を学ぶなら五ヶ瀬川」となる姿を描いていきます。

今後の実践

「歴史と環境」をテーマとした新たな着型観光のツーリズムを形成していきます。コンテンツは、地質・自然・有機農業・スポーツ・健康（五ヶ瀬町）・天孫降臨（高千穂町）・平家落人伝説（椎葉村）などがあります。これらを束ねるため、仮称「五

ヶ瀬塾」なる観光商品パッケージを開発していきます。五ヶ瀬川の源流域は、熊本や博多方面からも近く、これらの地域が実質的な観光のマーケットです。さらに、歴史的なポテンシャルは全国区です。これまで五ヶ瀬町を巡り取り組まれてきた観光的側面の活性化の経験を再構築し、歴史と環境のツーリズムの誘発を目論みます。五ヶ瀬町でも、町全体の「もてなし」「ホスピタリティ」の向上に向けて、町民全体を巻き込む動きを形成しているところでもあります。仮称五ヶ瀬塾の展開によって都市部の人間が動けば、地元も関心を高め、下流地域も関心を高めます。この際に、ツーリズムの経済的仕組みについて、カーボンオフセット・ツーリズムを通じて旅行代金から環境保全の経費を徴収する仕組みの議論も重ねます。このことにより、例えば広葉樹の苗作りや森林整備などの資金捻出に繋がります。



ステップ7 戦略仮説に基づいて現場の人間関係を調整する

五ヶ瀬周辺の歴史と環境というコンテンツを、全国の中から相対的に浮き上がらせるには、それぞれの分野のプロの力が必要です。地域内には、これまでも地域資源を活かした観光に取り組んできた事業者がいます。一方、より質の高い取り組みとするためには、新たに観光系の取り組みを支援している専門家との連携が必要となります。まずは、学識経験者を「学び」の先生とする商品開発に取り組めます。

また、五ヶ瀬以外で歴史や環境を売りにした観光を促進している地域との関連づけにより、消費者から見て選択の魅力を高めることも必要です。このため、このような商品開発を行っている旅行代理店とのタイアップを考えます。